

2. テーマ 間の心

自然には間がある。

自然とは人の力を加えられないものである。

野を渡る風を待つ間は、初夏のひとつき。

かげった日射しを心待ちする間は、冬の日の屋下がり。

少しは遅かれと願う満月を待つ間は秋の夜長につながる。

全ての期待と興奮は、この少しの間をはさんで存在する。

雨を待つ間、晴れを待つ間は心と身を休め、やすらぎのうちに次にめぐり来るもっと大きな安心と満足を約束する。

自然のゆらぎとうねりは、間と間をむすびつけ、
歴史や文化を再生し、厳しい気象を挑戦することなく受け入れ（パッシブ）、
それを豊かなみのり（ニューテクノロジー）として創出させる。
打ち捨てられたかの如き種々の素材は、情ある使い手により眠りから覚め、
その地の恵みと共に、新しい時代を誇らかに演出する。

間の心 は まごころ につながる。

心あるもてなしは喧騒と多忙で疲れた訪ね人達に
自然のなかに健やかに漂ういやしの安らぎをもたらし、
失ったかと思われた感性を再び取り戻させる。

視線は果てしなく景観をとらえ、天然の香りに浸され、
快い響きは耳に愉しく、豊かな幸に舌はおののき、
ふれる手触りが身体をはしる時、全てが心の琴線を鳴らす。

